

414
A 2033

ホ
ノ
一

改租第二期以後調査ノ儀ニ付太政官ハ伺

改租業タル今古亦卑有ノ新制ニシテ其調理

ノ当否ハ民疾休戚ノ分ル、所ニ係リ其事務

重且大ナルハ今更ニ論出スルヲ頒ヒテ明治六

年談法沛頒布以來令ニ至ルニテ六箇年ニシテ

鹿児島縣ヲ除クノ外全國殆ト将ニ整頓ニ至コ

トス此大事業ニシテ其奏功ノ速ナルハ實ニ悖

クヘキノミ然リ而シテ其既往ノ蹤ニ就テ之ヲ

索考スレハ一縣中彼此ノ郡區其調査ノ平準ヲ

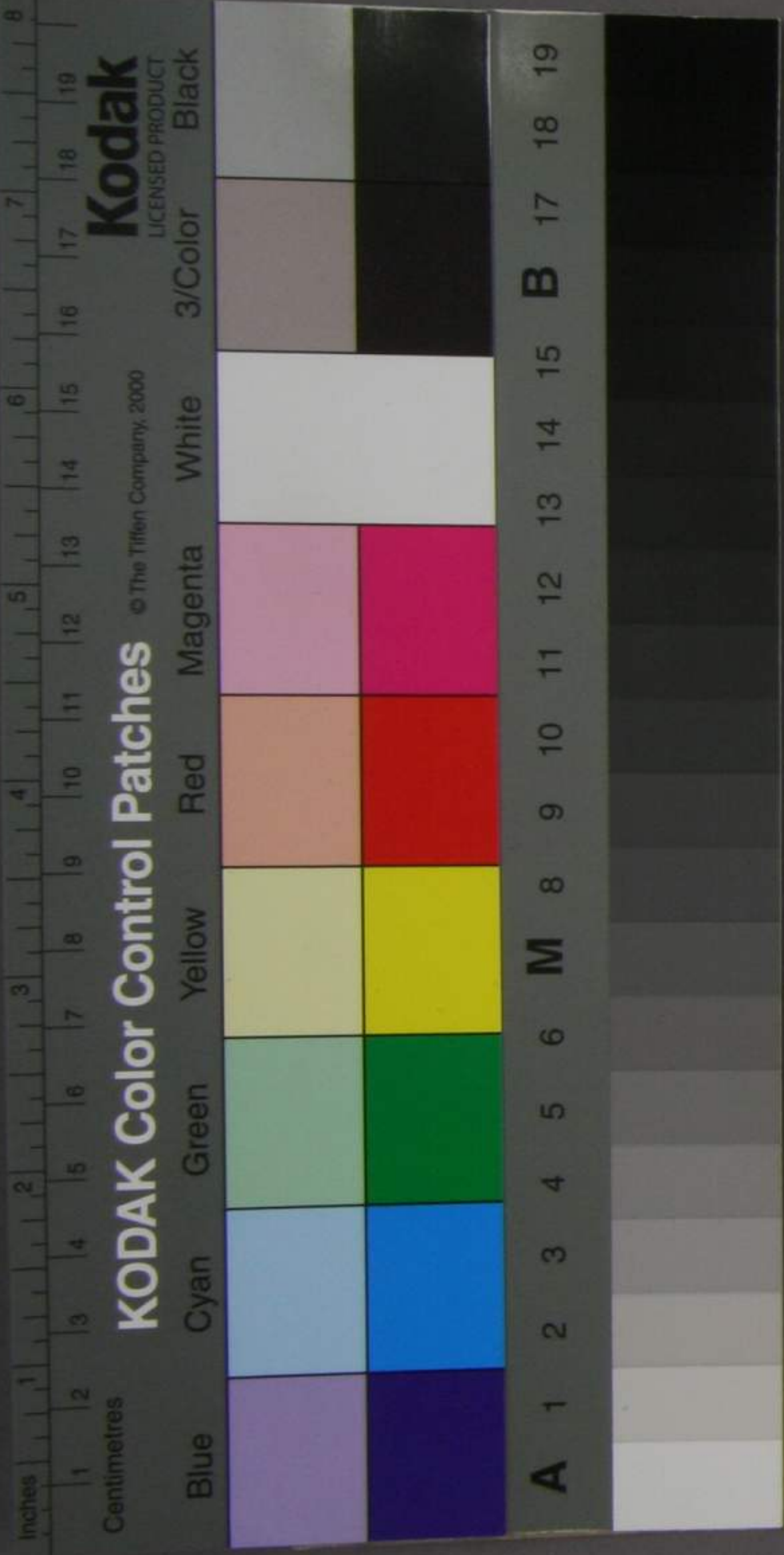
失フモノアルハ勿論各縣ノ權衡モ偶々大当ノ

モノアルヲ榮見クルニ至レリ是ヲ以テ或ハ直

人民ヨリ再調査ヲ請願スルモノアリ又ハ縣官

ヨリ申重スルモノアリテ諸縣中毫モ苦許ノ前

大正十一年四月



落十キハ蓋之精ニ如之然レモ第二期調査
則チ五ヶ年後ニ至リテ尚之ヲ更正スルキヲ諭
建ニ或ハ明許ニ其請求ヲ止息セシモノ比ニ
皆是ナリ抑モ新法ノ初制ヨリ善長ナリルニ
アラス新税ノ旧租ヨリ寛優ナラサルニ
テ事此ニ至ルモノハ何ヲヤ他ト法ハ漸
以テ完備ニ業ハ年ヲ逐テ慣熟セシニ由ルナリ
假令ハ彼ノ山口宮城水澤等ノ諸縣ヲ改正スル
ノ時ニ在リテ及別ハ一割内外ノ増減ヲ可トス
ルニ迄今ニ至リテ僅ニ一及歩ニ十歩内外ノ
増減ノミニ是認スルカ如キ是ナリ又前ニハ三
歩未滿ヲ切捨ト為シテ後ニハ一歩未滿ノミ
ヲ切捨ト改メ前ニハ二作三作ノ收穫ヲ細羅ニ

テ書出サセシニ後ニハ單ニ本作物ノミヲ用ユル
等皆視則更正上ニシテ生ル所ノ寛苛不均當ト
云フヘニ又為初後事者不慣熟ニシテ及別ノ六
畝地位ノ選定收穫ノ検査利子ノ差等米價ノ平
均等彼此其作用ヲ異ニスルニ生スル所ノ不
公至リテ加之人民開申ノ收穫ニ多寡アルニ由
ルカ如キ其原由一ナラサルニ其甲乙ノ權衡ニ
失フハ一ナリ且彼米價ノ如キハ平均法ノ廣
カラサルト其區分ノ少キト平均法ノ密ナラカ
ルヨリ大ニ其價格ノ標準ヲ失フモノナリ彼ノ
山口縣ノ米價、僅ニ三円ニシテ隣縣廣島ハ四
円八十錢ナルヲ如キ是ナリ豈之ヲ差當ナリ
ト云フヲ待ニヤハ中ニハ高價ニ六スルカ如キ

地租改正事務局

モノアリ此敷者皆第二期調有止ムハカ
ノアル所以ナリ今ヤ彼ノ改正法ニ明記セル地
價五ヶ年括置ハ各縣次第其期限ニ至ルハ以
テ更ニ簡明ナル方法ヲ設ケ務テ其費用ヲ節減
シ民ヲシテ得失相償ハス後ニ煩勞ニ堪ハカ
カ如思想ナカラシムルニ注意シ之ヲ第二期以
後調査法ト為シ一般御施行相成度因テ別冊相
添此段相伺候也

總裁

大政大臣院

第 號

納在告地

地租改正後每期地價調査規則別冊ニ通被定ニ依
條以告布告候事

但明治六年此第三百七拾貳號布告地租改正條例
及大藏省達地租改正施行規則中別冊ノ規則ニ
抵触スルモノハ第二期以降更正候義ト可相心得事

三十一

大政大臣

ホノ四ノ〇ニ行ル

地租改正後各期地價調査規則

第一條

山林魚野^{ヲ除クノ外}民有地每期地價調査ハ俾
テ此規則ニ從フヘシ

但山林魚野ノ規則ハ別ニ頒布スヘシ

第二條

地租改正後地價格置年限<sup>昂テ五
ヶ年間ヲ</sup>初期ト稱スル後
ノ年限ハ第何期ト稱スヘシ

第三條

第二期以降<sup>昂テ改租後六
ヶ年</sup>ハ十年間ヲ以テ一期ト
シ每期ノ初々實地ノ景況ニ就キ更ニ其後地價
ヲ調査スヘシ

第四條

一 期間ハ地ノ變遷賣買價ノ昇降等ニ係ハラズ該期査定スルノ地價括置タルハ

但荒地潰地或ハ留上地等ニテ地租ヲ免スルモ又ハ荒地潰地ノ起逐リ及ヒ昇墜年期明或ハ拂下地等ニテ地租ヲ課スル類ハ本條ノ例ニアラス

第五條

一 期間日畑宅地等目ヲ變換スルモ地價括置ノモノハ其年毎ニ主務ノ官吏實地ヲ検査シテ帳簿圖面ヲ更正ニ滿期ノ調査ニ際シ一取之ヲ整頓スルニ

第六條

地押必量ハ前期検査ヲ經シモノナルカ故ニ每期之ヲ調査スルニ及ハス下迄主務ノ官吏ハ不正確ヲ視認ルト

ホノ四ノ三

キハ滿期ハ勿論一期中ト虽モ實ニ實地ニ就キ正吾ノ検査スヘシ

第七條

是ニ最前ノ地押丈取一陳漏ニシテ地目錯亂ハ別伸縮アルヲ差額ノ實験ニ係ルトハ民入ル時ハ更ニ地主ニ地押丈量シサカシ主務ノ官吏検査ノ上地目及別收穫地價等ヲ改定スヘシ一期間ニ差額スルモ其年以

前期明ケニ際シ差額スルモノハ後期以件ノ但欺隱田糧ニ係ルモノハ此限ニアラス

第八條

前期査定ノ耕種收穫及宅地其他ノ地價後期ニ於テ増減ヲ及スルモノハ地主ヨリ其理由ヲ明申セシメ主務ノ官吏ニテ其理由ノ上適當ニ之ヲ定ム

地目改正事務

ムハニ

第九條

渾テ地價ハ目ノ賣買價ニ係ハラス收獲定地ノ收後他ノ地價ニ係ル
ニテ査定スヘシ
根拠トシ前期集計ノ方法ニ準

第十條

第二期以降地價調査ノ米麦大豆粟等ノ價ハ各地
相場立ノ處所ニ就テ該期前々年中最高價一年
ト最低價一年トヲ除キ殘餘ハ々年ノ平均ニ用ユ

第十一條

前期間地價交換地價措置タリシモノハ前期ニ至リ実
況ニ應ニ逐條類地ニ比準シテ適當ノ收穫地價ヲ

ホ五

空ムハニ

第十二條

山間海岸等ニ点在スル宅地ニシテ他ニ比準
難クモノハ一及ニ付三田ヨリサナカニサル地價ニシ
ムハニ

第十三條

前期ノ地價後期ノ実況ニ照シテ適當ヲ得ルモノハ前
期査定ノ額ニ措置ヘシ

第十四條

後期地價調査ニ際シ稟議ヲ經テ決定シ及各地
主ヨリ地券ヲ出サシメ左ノ如ク稟書捺印シテ
下附スヘシ

但テ裁辨以テ乃ハス

也且文正事務

東 二 方 公

印 州 府

地 價 若 年 一

以 地 租 若 年 一

年 一 年 一

印 州 府

地 價 若 年 一

年 一 年 一

地 價 若 年 一

年 一 年 一

印 州 府

印 州 府

ホ 六

也 且 文 正 喜 務 司

地 租 以 上 喜 務 司

收獲地價檢査リウスルハ係差之地主ハ
凡所不当ハ片ハ再調ヲ命之或ハ其ノ類
可示之テ過半面ニ至ルモ僅ク一ハ其ノ
之私見ヲ主張之テ之ヲ肯セサル片ハ之類
ノ官吏該地ノ實現ノ應ニ近傍類地ノ比準ニ
據リ適當ノ地價ヲ査定之程仰之上之ヲ地主
ニ申渡シ地券賣書ノ手續リケスヘシ

ホノ七完

第 号 通達按

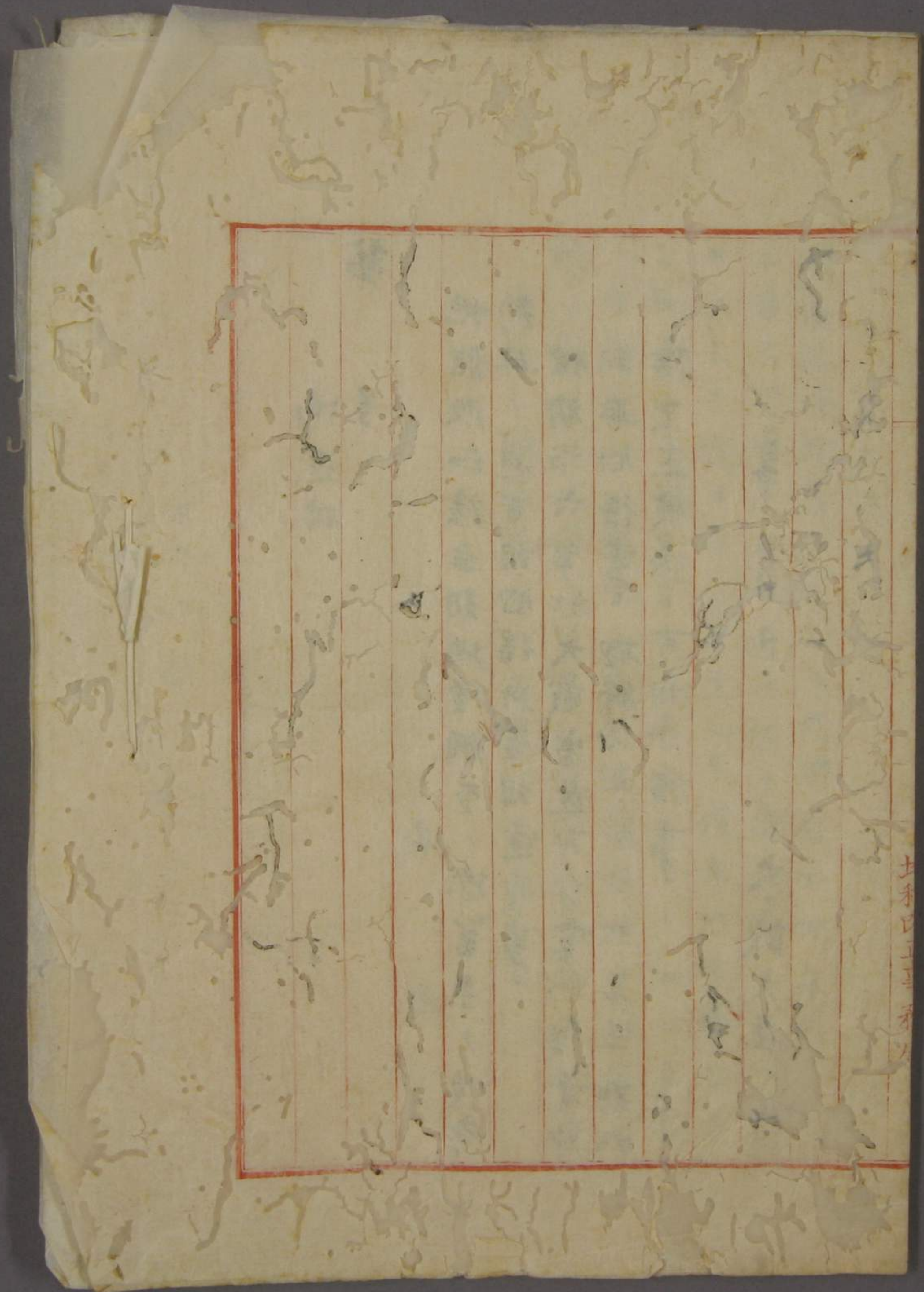
府 縣

地租改正後每期地價調査ノ際署名ノ順序
別冊ノ通可相心得此方相達候事
但明治六年壯大藏省達地方官心得書中
別冊心得書ニ相觸ルルモノハ第二期以
降更正候儀ト可相心得事

年 月 日

大改大臣

也且改正書各



七
和
日
三
月
初
八